



un film scritto,
prodotto e diretto da:
Marco Vicario

una produzione ATLANTICA FILM

7 UOMINI D'ORO

IL GRANDE COLPO DEI 7 UOMINI D'ORO



giorgia... Rossana Podesta
albert... Philippe Leroy

adolf... Gastone Moschin
aldo... Gabriele Tinti
alfred... Maurice Poli
alfonso... Mannel Sarzo
augusto... Giampiero Albertini
anthony... Dario de Grassi



musiche di Armando Trovajoli



 HERALD TECHNICOLOR



「世界最高の美女」と黄金の七人

小西康陽 (ピチカート・ファイヴ)

『黄金の七人』について1000字も話せるんでしょうか。ぼくはこのシリーズ、TVでしか観たことがないんですよ、いや待てよ、『エロチカ大作戦』だけは、札幌で『ギミ・シェルター』と二本立てで観たかもしれない。でもとにかく最初の『黄金の七人』も『レインボー大作戦』も『7×7』も、全部TVの深夜劇場で観ているのは確かです。『7×7』はトリックが絶妙でよく覚えてましたけど、他のは正直言って忘れかけていました。

だからやっぱりこのシリーズに俄然注目するようになったのは、あのアルマンド・トロヴァヨリーのサントラ盤を中古レコード屋で見つけたときからですね。ジャケットが最高にセクシでカッコ良い。ロッサナ・ポデスタのこのジャケットだけでもOKなのに、中身の音も最高で……。ちょうどフリッパーズ・ギターの『恋とマシンガン』がヒットしていた頃だったんで、DJをやるときにかけると、女の子がみんな集まってきたもんです、なんちゃって。

それからですよ、いろいろ知ったのは。主演女優のロッサナ・ポデスタが監督のマルコ・ヴィカリオの奥さんであることとか、ロッサナ・ポデスタが昔は“世界最高の美女”とかいうフレコミでイタリア映画界ではアイドル的なスターだったこととかね。マルコ・ヴィカリオはまあ、下らない映画ばかり撮ってる人ですけど、奥さんであるロッサナ・ポデスタを相当年を取ってからも使ってる人ですよ。やっぱりピンク・コメディみたいな映画で、豊富な熟女の役で。自分の奥さんをここまでセクシ・スターとして使いきるっていうのはどういう気分なんでしょうか。映画の中でフィリップ・ルロワが望遠鏡だったかレーザー・スコープだったかで、ロッサナ・ポデスタを凝視した後で言うでしょ。「毛皮の下はハダカなんだと思うとソクソクした」って。この監督の創作の原点はここに在るんでしょうね。そういえば、どの映画でも窓から隣を覗き視する、スコープから監視する、というモチーフが繰り返し出てくるでしょ。ヒッチコック的な視線、なのかな。映画らしいですよ。

でもこんなシリーズが、いま90年代の東京でリヴァイヴするってどういうことなのでしょう。『ナック』とかがヒットしたから当て込んでるのかしら。むかしはこういう少し洒落た作りの映画って沢山ありましたよね。『キスは殺しのサイン』とか、『女王陛下のダイナマイト』とか。そういうの全部観てみたいですね。いま観たいのは『Up the Junction』かなあ。でも誰だってあのテーマ音楽を聴いて、ロッサナ・ポデスタのステールを見たら、映画が観たくなりますよね。オレンジ色のワークウェアやポデスタのめくるめく衣裳や、音楽にぴったりの華やかなテンポのカットつなぎとか。この頃の娯楽映画ってバカラックの音楽とか、ジャック・フィニーの小説と同じで職人芸プラス・アルファがある。そこが良いと思うんですが。


黄金の七人 ●1965年 / 1時間31分

続黄金の七人—レインボー作戦— ●1966年 / 1時間44分

〈キャスト〉

ジョルジャ / ロッサナ・ポデスタ
 アルベール (教授) / フィリップ・ルロワ
 アドルフ / ガストネ・モスキニ
 アルド / ガブリエッティ
 アルフレ / モーリス・ホリ
 アルフォンソ / マヌエル・サルソ
 アウグスト / ジャンピエロ・アベルティーニ
 アンソニー / ダリオ・テ・グラッシ

〈スタッフ〉

製作 脚本 監督 / マルコ・ヴィカリオ
 音楽 / アルマンド・トロヴァヨリー
 イタリア映画 / アトランチカ・フィルム
 日本ヘラルド映画株式会社配給  HERALD

9/17(土)~ 黄金のロードショー!

黄金の七人	9/17~9/30	11:30	1:20	3:10	5:00	6:50
続黄金の七人	10/1~10/14	—	12:20	2:25	4:30	6:35

前売券 = 1,300円
 2プロ券 = 2,200円 (ペア券ではありません)
 (当日一般 = 1,600円 / 学生 = 1,300円)

ホワイト泉の広場上がる 東へ5分
扇町ミュージアムスクエア
 06・361・0088